

## 高齢者の良性脳腫瘍

頭の検査をしたら脳腫瘍が見つかった。なら、「すべてでも手術を」を考えるのが普通だ。が、そうはいかないケースもある。

85歳E子さん。「歩くと疲れやすい。ふらつくへびうに感じる。頭の病気でも？」と言って来院した。嫌なことに、ズバリ的中である。頭のMRI（磁気共鳴画像）の検査で左前頭に4〜5センチ大の脳腫瘍が見つかった。

腫瘍は結構に大きいが良性と思われ、まだ症状を出していない。ふらつくのは口ロナのせいで外出もせず、足腰が弱ったせいだろう。

脳腫瘍が大きくなると、頭の中の圧が高くなるものだ。頭蓋内圧亢進いびんしんというが、頭痛や嘔吐おうとが起きる。頭痛は、起床時にひどくなることが多い。噴射状に胃の中ものを吐くと、頭痛がケロッと治まったりする。吐かないまでも、お風呂には頭痛が軽くなる。

E子さんには、そんな頭痛はない。なぜか？一般的に、高齢者の脳は加齢のせい

萎縮している。Eさんの場合も、頭の中にデッドスペースがあった。それで、腫瘍が場所をとっても、頭の中の圧は高くならなかつたのだ。

もちろん、頭痛だけが脳腫瘍の症状ではない。脳腫瘍によって圧迫された脳の局所症状（手足の麻痺まひなど）や脳の異常興奮によるてんかん発作もある。だが、腫瘍が良性でゆっくりと発育するものだと、脳の圧迫による症状や刺激症状も出にくいようである。

ところで、高齢者の脳のもう一つの特徴は、その脆弱性じやくじやくせいである。高齢者の手術では、起きるはずのない、信じられないような合併症が起きてしまうことがある。

手術で脳腫瘍がきれいになくなくても、片麻痺を残したり、寝たきりの状態になってしまったりするのは治療といえるか？Eさんの場合は、少なくとも症状が出るまで手術をしないで経過をみることにした。が、さて。

（石黒修三||いしぐろクリニック・脳神経

外科専門医…9/27北國新聞掲載）